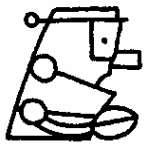


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
大地のしくみ / 理解シート

ねん土層に木の化石があったのは、なぜなの



ねん土層が、水のはたらきでできたものだから、木の化石が残ったのさ。ふつうは、木はくさってしまっていて残らないさ。

地層は、ほとんどが、水のはたらきでできる

がけなどで、図のように、しまになった地層が見つかることがあります。たいてい、角が丸い小石の多い層、砂の多い層、ねん土の多い層などが重なっています。これは、雨水が運んできたどしゃが、流れがゆるやかになるにつれて、重たい物から順にずんでいって、層のようになったためにできるものです。

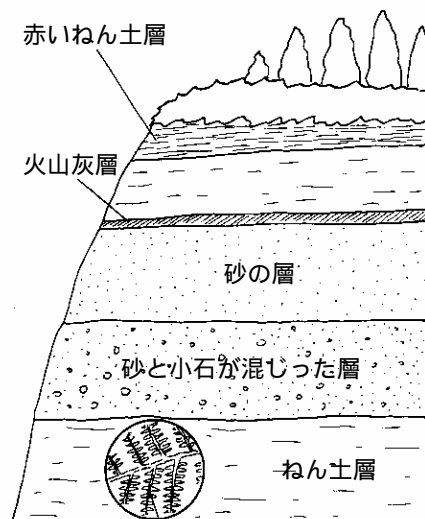
日本のように火山が多い国では、火山灰などが積もってできる地層もありますが、地上で火山灰が積もってできた地層には、化石はほとんど入っていません。

海底などに積もった火山灰は、砂やねん土の層の間に、火山灰の層がはさまっています。こんな地層には、海底の貝の化石などがみつかることがあります。

空気中や土中では、化石はほとんどできない

木、動物の死がいなどを、空気中や土中に置いておくと、くさって骨まで分解され、なくなってしまいます。たくさんの生き物やバクテリアのはたらきで、食いつくされ、分解されてしまうからです。空気中の酸素も、分解を助けています。

木の葉や動物の死がい、冷たい水中で砂やねん土などにうずもれると、まわりに空気がなく、バクテリアなども活発にはたけられないため、あまりくさらず、地層の重さで強くおしつけられ、そのまま化石に変化することがあるのです。



木の化石
がけで見つけた地層